

平成 18 年度独立行政法人福祉医療機構助成金
(長寿社会福祉基金「一般分」)
事業報告書

Web 学習を用いた知識学習による
認知症ケアの理解向上のための啓発事業

平成 19 年 3 月

社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター

目次

I. 事業のねらい	1
II. Web学習コンテンツ作成作業部会 事業成果報告	3
III. 転倒・転落事故防止に関する作業部会	55
IV. 事業のまとめ	
委員会委員名簿	111

I. 事業のねらい

超高齢社会を迎え、更なる認知症高齢者の増加が予測されており、認知症ケアにおいては、認知症高齢者の理解が重要である。「痴呆」から「認知症」に名称が変更され、「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」が平成17年度より始まり、「認知症を知る」さまざまなキャンペーンが展開されているとおり、認知症についての社会における理解は、まだまだ不十分である。そのため、認知症の知識や情報を正しく伝達していくことが非常に重要である。介護予防という観点からも、高齢者自身、高齢者の家族、介護専門職のみではなく、広く一般に、予防も含め認知症の理解が促進されることが求められる。

そのための方法として、1つには、インターネットのWeb学習を活用し、広く不特定多数の対象者に対して、認知症の知識と情報を提供する可能性が指摘できる。

また、認知症介護に伴う生活上のリスクとして、在宅や施設では日常的に転倒、転落事故が発生している。事故は認知症高齢者に集中する傾向にあり、認知症高齢者のQOLを低下させる要因にもなっている。認知症高齢者の転倒・転落事故に焦点をあて、事故分析を通して転倒・転落の要因を抽出し、有効な転倒・転落事故の防止策を提言し、認知症高齢者の生活の質の向上に寄与することも重要である。

以上から、本事業は、

1. インターネットを活用したWeb学習のコンテンツを作成し、認知症の知識や介護に関する情報を提供することにより、広く国民に正しい知識の修得の機会を提供することを目的とする。
2. 転倒・転落事故に関する調査研究を実施し、その要因を明らかに、その予防に関する指針を提示することを目的とする。

上記の2つの目的を達成するために、2つの作業部会を設け、事業を実施した。

Ⅱ. 学習コンテンツ作成作業部会 事業成果報告

研究代表 小野寺 敦志

研究委員 秋田谷 一

中西 誠司

林田 貴久

阿部 哲也

中村 裕子

中村 考一

目 次

事業要旨	7
1. 事業のねらい	8
2. 事業内容	9
3. 事業結果	13
4. まとめ	47

事業要旨

目的:本事業は、認知症介護研究・研修センター（仙台、東京、大府）のインターネットのホームページである認知症介護情報ネットワーク（通称：DC ネット）の機能である Web 学習を活用し、一般国民に対して広く認知症に関する知識習得の機会を提供することを目的とした。Web 学習を掲載するサイトは、DC ネットの中にある「知ってなるほど！塾 Web 学習による認知症介護基礎講座」とした。

方法:委員会において、コンテンツのテーマを検討した。検討されたテーマに従い、コンテンツ原稿を作成用の書式を用いて作成し、原稿から絵コンテとナレーション原稿を作成し、それを校正した。完成した絵コンテとナレーション原稿をもとに映像コンテンツ作製とナレーション録音を行い、Web 学習コンテンツを作成した。

Web 学習サイトに掲載したあと、利用者に対して Web 上でのアンケート調査を実施した。

結果:委員会で検討し決定した認知症のテーマは「認知症に伴う行動及び心理症状」のうち、以下の 7 テーマとした。「はじめに(テーマ説明のコンテンツ)」「繰り返しの訴え」「物盗られ妄想」「徘徊のうち、止まらずにずっと歩き回る」「徘徊のうち、帰宅願望」「性的逸脱行動」「暴力行為」。この 7 つの原稿を作成し、それに基づき絵コンテとナレーション原稿を作成した。

上記の「はじめに」「繰り返しの訴え」「物盗られ妄想」「徘徊のうち、止まらずにずっと歩き回る」の 4 つのテーマを、Web 学習コンテンツとして作成した。Web 学習コンテンツとして作成された各テーマのタイトルは、「はじめに」「訴えの多いハルさん」「ナツさんの物盗られ妄想」「一日中徘徊するアキさん」とした。平成 19 年 3 月から、順次 DC ネットの「知ってなるほど！塾 Web 学習による認知症介護基礎講座」に「認知症に伴う行動及び心理症状について」の学習コンテンツとして掲載した。

掲載後の Web 上のアンケート調査の結果は、3 月 15 日までの 15 日間で 21 名の回答を得た。コンテンツに対する評価は、見やすさにおいて 9 割の、内容のわかりやすさについても 9 割の肯定的な評価を得た。

まとめ:コンテンツ原稿作成用の書式を用いて作成した。その結果、原稿の書式を統一して作成することができた。書式に従い絵コンテ、ナレーション原稿の作成作業も容易にでき、作業工程のフォーマット化がなされたといえる。完成した学習コンテンツの評価は、表示の見やすさ、内容のわかりさにおいて一定の評価を得た。今後、さらに学習コンテンツの種類を増やし、更なる啓発に寄与することが求められる。

1. 事業のねらい

本事業は、認知症介護研究・研修センター（仙台、東京、大府）のインターネットのホームページである認知症介護情報ネットワーク（通称：DC ネット）の機能である Web 学習を活用し、一般国民に対して広く認知症に関する知識習得の機会を提供することを目的とした。

認知症に関して、介護専門職の分野をみると、平成 13 年度から都道府県で認知症専門の研修である、認知症介護実践研修等が展開されている。しかし、受講数には限りがあること、介護専門職という現任者を対象としており、基本的な講義内容よりも現場の介護に直結した内容が中心である。そのため、新人の介護専門職が求める認知症介護に必要な認知症に関する基本的な知識学習の機会は、十分に提供されているとはいえない。それは、介護福祉士養成の大学ならびに専門学校の現在のカリキュラムを概観しても、認知症の教育が独立で提供されていない。このことから、認知症に関する知識伝達の機会を設けていくことは重要であるといえる。

一般国民においても、「痴呆」から「認知症」に名称が変更され、それに伴い「認知症を知り地域をつくる 10 ヶ年」が平成 17 年度より始まり、「認知症を知る」さまざまなキャンペーンが展開されている。これは、認知症への誤った理解や偏見をなくし、高齢者自身が住みなれた地域で自分らしい生活を支援するためのものである。このように、名称変更やキャンペーンが展開されることは、社会における認知症についての理解がまだまだ不十分であり、認知症の知識や情報を正しく伝達していくことが非常に重要であることを示唆している。さらに、介護予防という観点からも、高齢者自身、高齢者と同居する家族のみならず、広く一般に、予防も含め広く認知症の理解が促進されることが求められる。

以上を踏まえ、本事業は、インターネットを活用することにより、対象人数や開催地域にとらわれることなく、広く国民に対して、認知症に関する知識の修得の機会を提供することにより、認知症の理解を促進する啓発に寄与することを目指すものである。

2. 事業内容

1) 作業部会の事業活動経過

Web 学習のコンテンツを作成するために、5 回の作業部会を開催し、事業を展開した。

第 1 回作業部会 平成 18 年 5 月 26 日 (金) 開催

コンテンツのテーマを設定し、コンテンツの作業スケジュールの確認を行った。
コンテンツのテーマは、「認知症に伴う行動及び心理症状 (行動障害)」とし、以下の 7 テーマが決定した。

- はじめに
- 繰り返しの訴え
- 物盗られ妄想
- 徘徊のうち「止まらずにずっと歩き回る」
- 徘徊のうち「帰宅願望」
- 性的逸脱行動
- 暴力行為

第 2 回作業部会 平成 18 年 7 月 14 日 (金) 開催

コンテンツの骨子となる原稿内容の構成を検討し、以下の内容に決定した。

- 事例の提示により、場面設定し考える内容とする。
- 原稿の構成は、
 - ・事例の説明(場面中心に、職員側からの視点)
 - ・高齢者本人から見た説明
 - ・認知症の中核症状のこういったものが関連するかの解説。

○Web 学習後の「自己確認テスト」は、3 題程度作成する。

質問、解答、解説で構成する。提示したテーマの知識的確認を中心とする。

第 3 回作業部会 平成 18 年 10 月 14 日 (金) 開催

テーマごとのコンテンツ原稿をもとに、コンテンツの絵コンテならびにナレーション原稿の第 1 稿についての、内容確認と討議を行った。

自己確認テストの文字数と問題数を決定した。文字数は1問800字から1200字、問題数は4問前後とした。

第4回作業部会 平成18年11月27日(月)開催

コンテンツに用いる事例の名称や表現を決定した。コンテンツの各タイトルを決定した。

○事例の高齢者は、ハル、ナツ、アキ、フユとする。介護職は、スタッフと表現する。場面は、老人ホーム、老人保健施設、グループホームなどとする。

コンテンツのタイトルは、

- はじめに(本コンテンツの説明)
- 訴えの多いハルさん
- ナツさんの物盗られ妄想
- 一日中徘徊するアキさん

第5回作業部会 平成19年1月24日(水)開催

コンテンツの作成状況と、DCネットへの掲載時期、掲載後のWeb上でのアンケート収集の方法などについて検討した。

- コンテンツは、1タイトルごとに一定期間をあけて、アップする。
- アップ後2週間程度、Web上でアンケートを収集する。

平成19年3月に、以下の4タイトルがDCネットのWeb学習サイトに掲載された。

「はじめに」「訴えの多いハルさん」「ナツさんの物盗られ妄想」「一日中徘徊するアキさん」

2) 広報活動

Web学習サイトの広報を行うために、パンフレット6000部を作成し、認知症介護に関連する学会、大会等でパンフレットを配布するとともに、Web学習のデモンストレーションを、ノートパソコンを用いて実施した。

広報を行った学会、大会は以下のとおりであった。

ア. 認知症ケア学会

日 時：平成 18 年 9 月 29 日～平成 18 年 10 月 1 日

場 所：札幌国際コンベンションセンター

参加者：主に認知症ケアに携わる高齢者福祉に関する職種。

イ. 第 18 年度 全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会

日 時：平成 18 年 10 月 4～5 日

場 所：東京ビックサイト（東京都）

参加者：センター役員および職員都道府県・指定都市・市町村行政および社協担当者等

ウ. 全国老人福祉施設協議会

日 時：平成 18 年 11 月 6 日～平成 18 年 11 月 8 日

場 所：神戸国際展示場

参加者：おもに老人福祉施設の施設長を中心とする高齢者福祉関係者。

エ. 認知症の人と家族への支援をすすめる第 22 回全国研究集会
（「家族の会」の全国集会）

日 時：平成 18 年 11 月 12 日

場 所：山梨県民ホール（甲府市）

参加者：認知症の人の介護家族、認知症に携わる福祉等関係者


このほか、関係団体へ郵送にてパンフレットを配布した。

また、各委員が地元の認知症関係の研修会等で、パンフレットの配布を行った。

パンフレットの見本一部を、次のページに示した。

なお、パンフレットは、DC ネットにも掲載し、インターネット上でも広報を実施した。

知るほど！ 知って 塾



Web学習を用いた
認知症介護基礎講座

利用案内


認知症介護研究情報ネットワーク
(Dementia Care Information Network)
<http://www.dcnnet.gr.jp>


認知症介護研究・研修センター

パンフレットの表紙

“知ってなるほど塾”
とは何ですか？

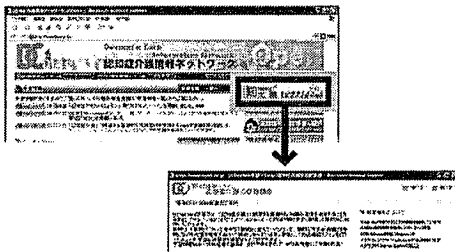
※「知ってなるほど塾 Web学習を用いた認知症介護基礎講座」は、
認知症介護に必要な基礎的知識を学んでもらうWeb学習サイトです。

※  の中に、「知ってなるほど塾」があります。

※  のアドレスはこちらです。

<http://www.dcnnet.gr.jp>

※「知ってなるほど塾」の表示をクリック（1度押し）すると、Web学習の
ページが開きます。



Web学習「知ってなるほど！塾」紹介ページ

3. 事業結果

1) Web 学習の構造と内容

本研究事業で作成した Web 学習コンテンツは、認知症に関する基礎知識習得のための支援教材として、DCnet 上で運用するため一般の利用者も視聴できるものである。教材は、認知症介護実践者研修受講対象者相当の介護専門職を対象にした内容であるが、アニメーションとナレーションによって解りやすく解説しており、前提知識がなくても学習可能なものとした。

コンテンツは、DCnet 上に設置した「知ってなるほど！塾 Web 学習による認知症介護基礎講座」のメニューから利用できる。内容は、「認知症に伴う行動及び心理症状について」をテーマとして4つの教材で構成している。

2) システムの動作環境

コンテンツは、DCnet の機能である Web 学習機能を利用しており、利用者は DCnet ホームページの通常のコンテンツとして視聴できる。但し、本教材は動画教材を用いているために利用者環境として次の条件を設けた。

- ・ADSL 等の常時接続のインターネット環境
- ・OS : Windows2000、Windows XP
- ・プラグインソフト : Flash player
- ・ブラウザ : Internet Explorer6.0

3) コンテンツの構成と内容

コンテンツは、学習教材の案内と4つ教材で構成した。教材はそれぞれ複数の学習単元と自己確認テストから成る。学習単元は2分程度の FLASH アニメーションとナレーションを用いて簡潔にまとめている。学習の最後に、「自己確認テスト」を行うことによって学習の理解度を図るものとした。

教材の内容は、事例を通して「認知症に伴う行動及び心理症状」における基本的な知識や考え方の理解を促すことを目的としたものである。

(1) 対象者と目的

- ア. 認知症介護実践者研修受講対象者相当の介護職が必要とする基礎知識の習得支援

イ. 家族介護者、学生など一般の人が理解できる基礎知識の習得支援

(2) コンテンツの構成

ア. 学習案内

各教材名と概要

イ. 教材名称と構成

教材 1: 「はじめに」

- ①学習のねらい
- ②場面設定と人物設定

教材 2: 「訴えの多いハルさん」の事例

- ①訴えの多いハルさん
- ②不適切な対応による影響
- ③ハルさんの内的世界
- ④短期記憶障害による影響
- ⑤ケアの留意点
- ⑥自己確認テスト 4 問

教材 3: 「ナツさんの物盗られ妄想」の事例

- ①ナツさんの生活歴
- ②ナツさんとスタッフの視点
- ③ナツさんの心理状況
- ④物盗られ妄想とは
- ⑤対応の留意点
- ⑥自己確認テスト 5 問

教材 4: 「一日中徘徊するアキさん」の事例

- ①スタッフの視点
- ②本人の視点
- ③中核症状との関係
- ④その他の要因
- ⑤理解する上での留意点
- ⑥自己確認テスト 4 問

ウ. 参考文献

4) Web 学習の名称とホームページアドレス

●Web 学習名称

「知ってなるほど!塾 Web 学習による認知症介護基礎講座」

「認知症に伴う行動及び心理症状について」

●ホームページ名称

認知症介護情報ネットワーク (Dcnet)

URL: <http://www.dcnet.gr.jp/>

5) サイトの構成

コンテンツは、DCnet のトップページに配置した「知ってなるほど!塾 Web 学習による認知症介護基礎講座」のメニューから利用できる。

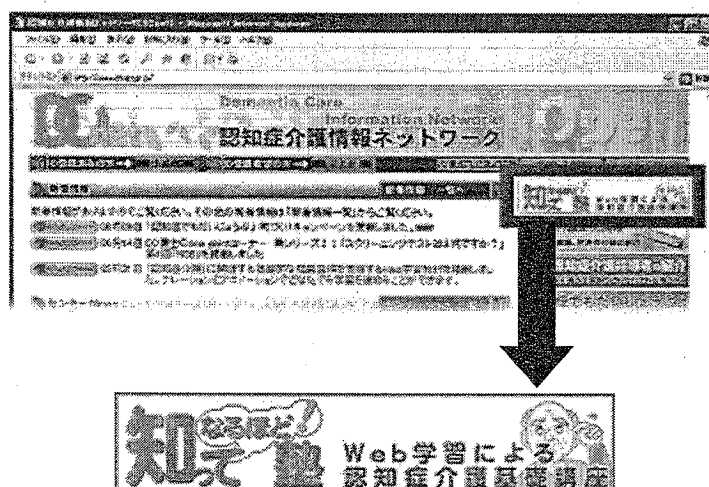


図 4-1 「知ってなるほど!塾」

「知ってなるほど!塾」内に、Web 学習案内ページを設け、教材テーマである「認知症に伴う行動及び心理症状について」における各教材名と概要を示した (図 4-2)。各教材は、教材一覧ページの中から任意に選択し学習を始めることができる (図 4-3)。また、コンテンツ評価のためのアンケートページを期間限定で設けた。各コンテンツの遷移はサイト構成図のとおりである (図 4-4)。

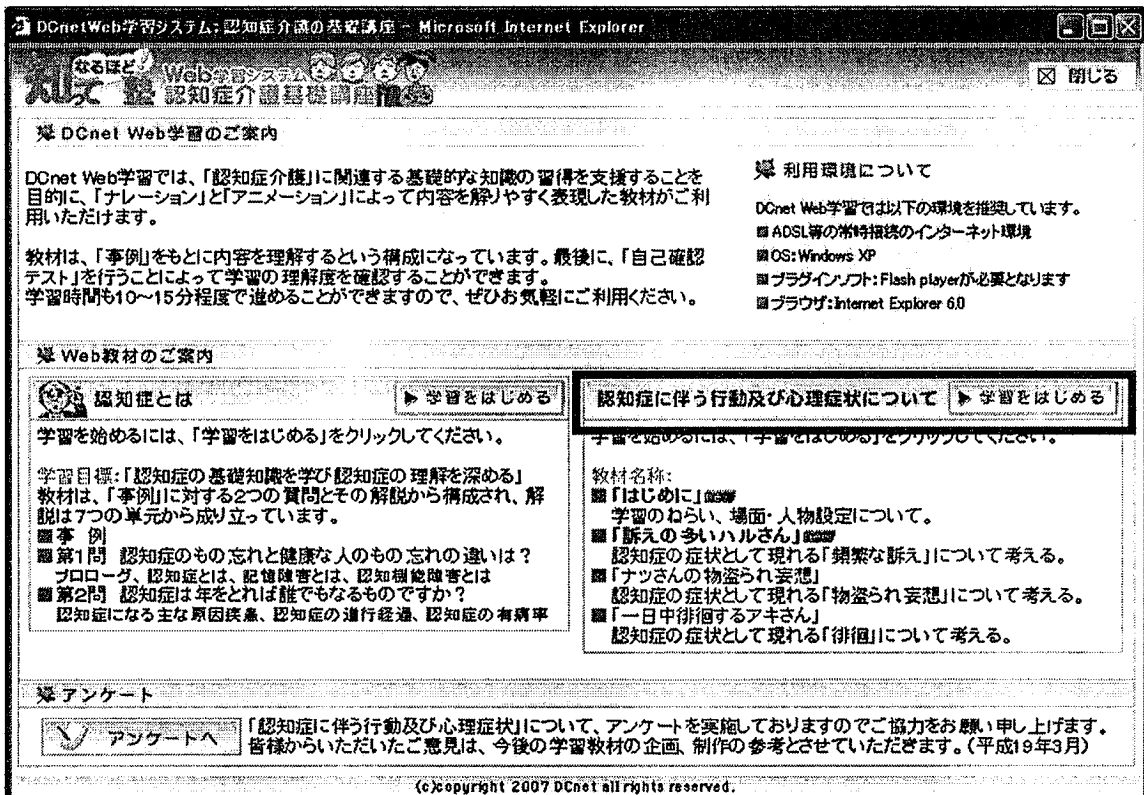


図 4-2 Web 学習の案内ページ

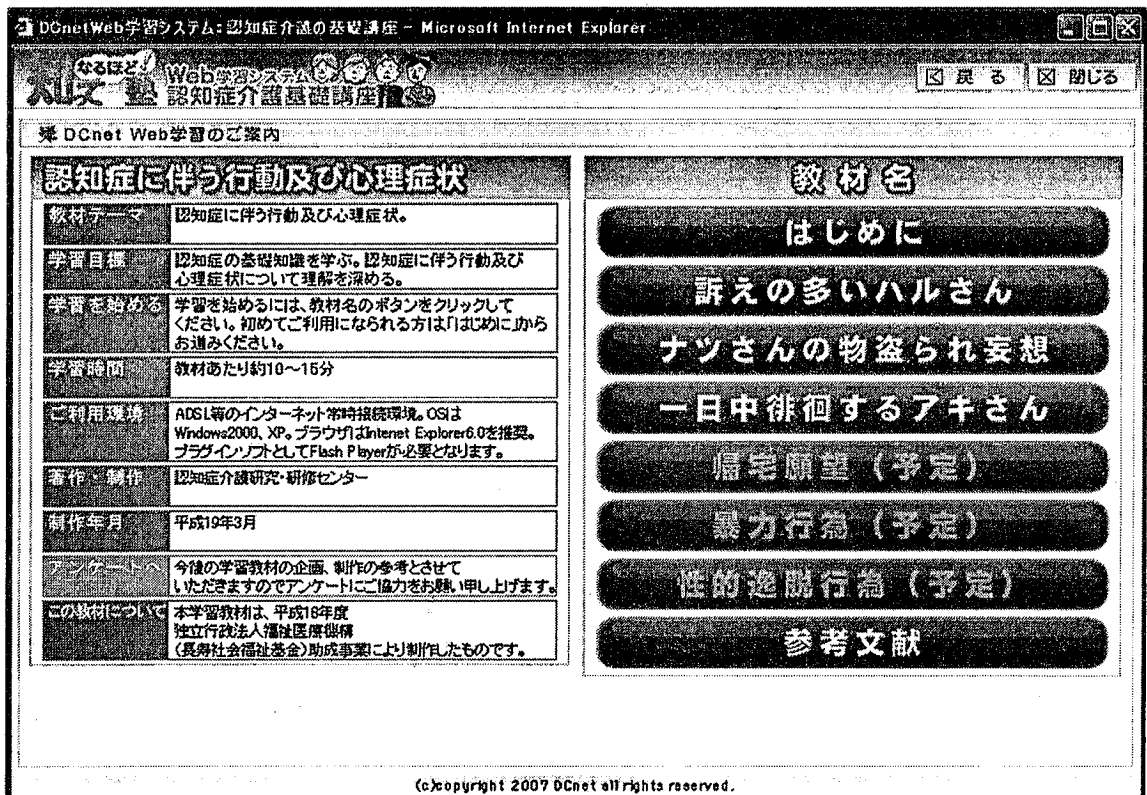


図 4-3 教材一覧ページ

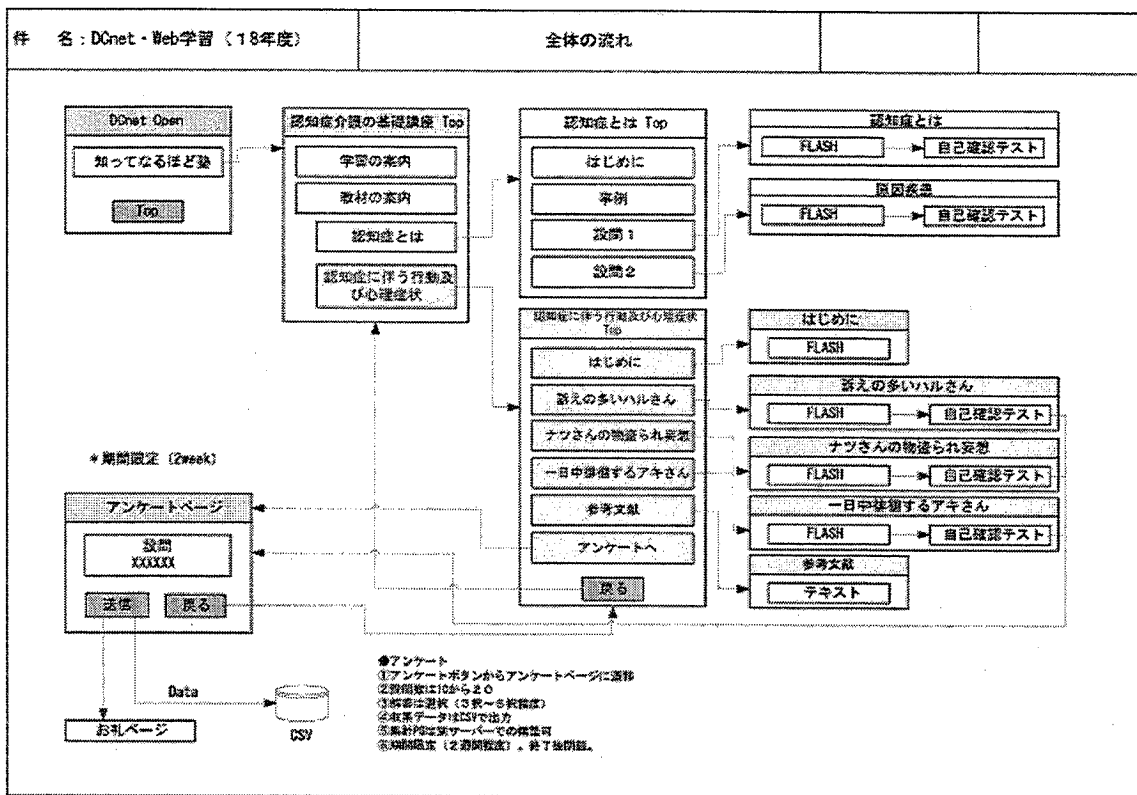


図 4-4 サイト構成図

6) 原稿作成からコンテンツ原稿作成までの手順

教材の作成にあたっては、作業部会において教材のテーマ、内容検討を行い教材の企画書を作成した。企画書は、教材の骨子を確認するためのもので、学習のシナリオとなるキーワード、図表のイメージ、強調点およびナレーションのあらすじを明示したものである（図 4-5）。

次に、企画書のシナリオに沿ってナレーション原稿を作成し、シーンごとに表示する内容を確認するための絵コンテを作成した。絵コンテでは、イメージキャラクターを創作し、ナレーションと表示内容の同期など整合性に不都合がないかを視覚的に確認した（図 4-6）。

企画書および絵コンテは作業部会で承認を受けた後、コンテンツ制作用の原稿とした。

